第20回 全国農林水産物直売サミット 開催報告

テーマ　未来へつなげる直売活動　～直売所の持続と挑戦～

◆日　程　2023年11月16(木)～17日(金)　　◆参加者　約300名

◆会　場　ライトキューブ宇都宮(栃木県宇都宮市) 他　◆直売所視察　栃木県下の直売所をめぐる全4コース

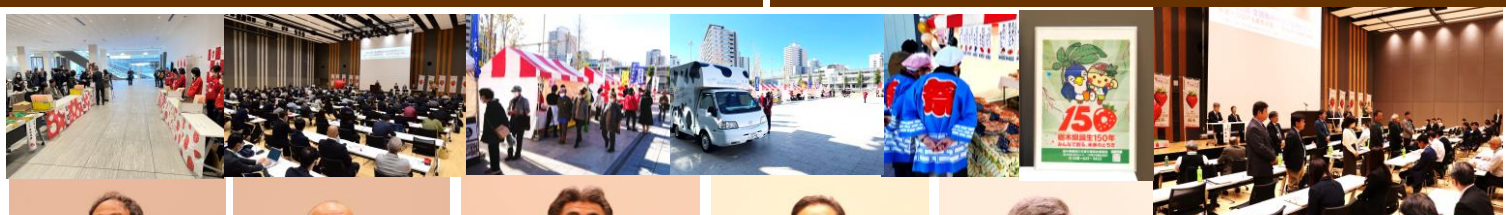
最先端をいく直売所の活動紹介、直売所を取り巻く課題別の８つの分科会、県内４コースの直売所視察を通じ、全国の直売所関係者の連携と交流を大いに深めました。今サミットにおいて直売所の目的と役割を再考・評価し、日本の農林水産業と地域づくりを足元で支えている直売所の持続的な発展と未来に向けた挑戦を誓い合いました。

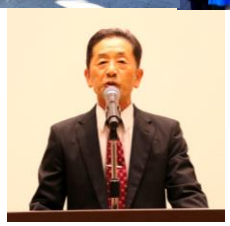
「直売所を核に、コミュニティビジネスから地域商社へ」をテーマに、(株)ファーマーズ・フォレスト(宇都宮市)松本 謙代表から講演。直売所を率いるトップリーダーの戦略とビジョンを聞き、直売活動から広がる事業の可能性に、大いに刺激をもらいました。

リレートークは「中山間地域の資源を磨き、商品化・雇用の創出」をテーマに、(株)もてぎプラザ　代表取締役・道の駅もてぎ　駅長である古口　達也　茂木町長から。話が進むにつれて、町長の顔から、商人の顔に。人材マネージメントの哲学に引き込まれました。

(株)道の駅しもつけ(下野市)　取締役　後藤　勲 駅長からは、「地域のニーズを掘り起こし、新たな需要を創る直売所」をテーマに、地元のお客様に満足してもらう売り場づくり、商品の宅配サービスなど、観光客頼りではない店づくりの姿が紹介されました。

(株)たくみの里(群馬県みなかみ町) 西坂　文秀　代表からは、観光立地でコロナで打撃を受けた直売所や交流施設の苦闘と、それでも新たな事業に挑戦するリーダーの姿を「中山間地域の直売所で作る・稼ぐ・集める仕掛けづくり」と題して語られました。





今年は栃木県の誕生から150年の記念の年でもあります。会場展示・いちご王国マルシェの開催で直売サミットを盛り上げて頂きました。

栃木県様、宇都宮市様、農林水産省様には日頃より直売活動に応援を頂いていますが、開会時に直売所への激励の言葉をもらいました。左から、栃木県 天利 和紀 副知事、宇都宮市 酒井 典久 副市長、農林水産省 信夫 隆生 関東農政局長、全国農産物直売ネットワーク代表の染谷 茂（直売所かしわで・㈱アグリプラス会長）、(一財)都市農山漁村交流活性化機構 常務理事の須藤 徳之(主催者)

主　催　(一財)都市農山漁村交流活性化機構(まちむら交流きこう)　共 催　全国農産物直売ネットワーク

後　援　栃木県　宇都宮市　農林水産省　ＪＡ全中　JA栃木中央会　(一社)栃木県農業会議

(公財) 栃木県農業振興公社　(一社)農山漁村文化協会　(一社)全国農業改良普及支援協会

(一社)全国農協観光協会　全国直売所研究会　(株) 産直新聞社

第20回　全国農林水産物直売サミット

8つのテーマの分科会

立地・立場・規模を超えた、熱い意見交換。時間がどれだけあっても足りません

現在の直売所が抱える８つの主要課題について、ゲストスピーカーを迎え、参加者の皆さんと語り合いました

サミット分科会の8つのテーマ

全分科会に明治大学農学部の竹本田持ゼミ生が参加し、次世代を担う若者の視点から立派なレポートをまとめてくれました

①直売所の目的と役割を再考する　～新たな食料・農業・農村基本法を視野にして～
　スピーカー（株)産直新聞社　代表取締役（長野県伊那市）毛賀澤 明宏

②中山間地域・小さい直売所の経営戦略　～今、進めるべき支援策は何か～
　スピーカー　雲南市 農林振興部 農業畜産課　産直振興推進官（島根県雲南市）須山　一
　進行役　　(株)秋津野ガルテン　取締役(和歌山県田辺市）木村　則夫

③お客様が期待する、直売所のイベント実例　～コロナ後のイベントのあり方とは～
　スピーカー（株)産直あぐり　取締役　店長（山形県鶴岡市）叶野　由佳

④直売所だからできる、営農支援と農業振興　～地域の未来を見据えた戦略とは～
　スピーカー（株)たくみの里 代表取締役（群馬県みなかみ町）西坂　文秀
　進行役　　栃木県益子町　企画課　上田　昌史

⑤直売所が自ら行う、売れる加工品づくり　～商品開発の地域拠点として～
　スピーカー（株)ましこカンパニー／道の駅ましこ　支配人（益子町）　髙橋　裕也

⑥直売所からの効果的な情報発信とは　～POP・SNSの活用と情報リテラシー～
　スピーカー（株)グリーンデイズ 農産直売所あぜみち マーケット開発課長(宇都宮市）及川　拓人

⑦生産者が出荷したくなる直売所運営　～地場産物を売り切る知恵と工夫～
　スピーカー（株)アグリパル塩原　代表取締役（那須塩原市）　君島　圭一

⑧直売所スタッフの人材育成と定着　～チームどまんなかの行動指針とその実践～
　スピーカー（株)どまんなかたぬま・道の駅どまんなかたぬま 販売事業部 部長（佐野市）田名網　徹

第２０回　全国農林水産物直売サミット　交流会
～とちぎの豊かな食を楽しみ、意見を交える交流懇親会～

交流会は全国直売サミットの目玉の1つ。今年はコロナ後初となる制限なしの通常スタイルで、約150名の皆様にご参加頂きました。栃木県の皆様方の手厚いおもてなしの心に参加者も感動・満腹・感謝のひとときでした。

交流会は全国農産物直売ネットワークの山口 成美 副代表（長崎県・おおむら夢ファームシュシュ 代表）の開会宣言で元気にスタート。
「いちご王国」鏡割りでは、なんと樽の中から栃木県オリジナル品種のいちご**とちあいか**が飛び出しました。

栃木県農政部の増田次長、宇都宮市経済部の會澤次長、栃木県農村振興課の大谷課長より交流会の開会にあたりご挨拶をいただきました。

とちぎフレッシュメイトに食材のPRを行っていただきました。

しもつかれ
栃木県を代表する郷土料理。正月の塩引き鮭の頭や節分の福豆の残りの大豆などを使ったもの。地域により大根、酒粕、人参などが入る。家庭で冬に食べられる栄養価の高い料理。

ローストビーフ（とちぎ和牛）
栃木県内の指定生産者が育てた黒毛和牛のブランド。きめの細かな霜降り肉は、柔らかく風味豊かでとろけるような味わい。

プレミアムヤシオマスの柚子味噌焼き
栃木県が長年かけて開発した、大型のニジマス「ヤシオマス」。脂肪の質に着目し、オレイン酸を豊富に含ませて、美味しさを確立させた。プレミアムは、7つの基準をクリアしたブランド品。

栃木県で開発された酒米「夢ささら」で醸造された日本酒の試飲、宇都宮餃子の試食など、栃木の食の素晴らしさを堪能できる幸せなひと時となりました。

交流会の温かな運営とおもてなしにご尽力いただいた栃木県・宇都宮市の皆様に心より御礼を申し上げます

交流会の中締めは、道の駅ましこを運営する、㈱ましこカンパニー代表取締役社長の広田 茂十郎 益子町長から。直売サミットの参加常連さんとして、交流会を「いちご締め」で締めて」頂きました。

来年度の開催地は九州・大分県。大分県からは地域農業振興課の大隈　恒 課長補佐がPRに駆けつけてくれました。今サミットには大分県内から県議も含め総勢11名に遠路ご参加頂きました。

第２１回全国農林水産物直売サミットは６次産業の誕生の地 大分県で開催します
来年は大分県にお集まり下さい（場所・日程は調整中）